

【竹下千晴 先生】

先ず最初に、この様な状況下でコンクールを開催してくださいました有明楽器さんと講師の先生方に心より御礼申し上げます。お教室で学ぶ生徒さん達にとっても「コンクールに挑戦する」と言う目標を持てた事はいつもに増して有難く、幸せだったのではないのでしょうか。このコンクールは生徒さん一人一人が自分の力に合わせて課題曲、自由曲に取り組めるよう様々なコースを設定しており、バロックから古典、ロマン派、近現代、更にエチュードとまんべんなく学べるように工夫されていて、毎年このコンクールを通してステップアップしながら楽しく、しかも本物の勉強をされている演奏に、ワクワクして2日間があっという間に過ぎました。

私が音楽する時に大事に思っているのは、決して他人と比べない！自分はどう感じるのか！作品を通して私の音楽を追求することです。音楽は私達ももっと深く、更に良い演奏にするには・・・と求めればどこまでも深める事ができるし、応えてくれま。今回、最後の大学生の演奏を聴かせていただきながら、小さな子供さん達がこのお姉さんのようにコツコツ努力を積み重ねて成長してくださるようにと願っておりました。これからも素晴らしい先生方と共に、音楽の魅力を一つでも多く発見して素敵なピアノを弾き続けてください。皆さんの素晴らしい演奏に私がパワーを頂きました。本当にありがとうございました。

【谷脇裕子 先生】

はじめに、昨年から続く困難な状況の中、がんばって勉強を続けて演奏を披露して下さった出場者のみなさま、ご指導いただいた先生方、様々な対策をしながら準備、進行して下さったスタッフのみなさま、無事コンクールを終了できましたことをお慶び申し上げます。

努力や研究の跡が見える、熱意のこもったたくさんの演奏を聴かせていただいて、私自身大きな刺激を受けました。その熱意に応えられるよう、できる限りの言葉を講評に書かせていただいたつもりですが、いくつかの点で言葉を補えればと思います。

まず、ピアノという大きな楽器を、小さなお子さんから大人まで同じような音量で鳴らすのは無理な話ですが、それぞれの段階で学んでいくことはありますし、その時点で精一杯の美しい音での演奏は十分に可能です。どうぞ、舞台映えする演奏だけでなくピアノの美しい響きを引き出すために、少しずつ手の筋力を高めて、いいタッチと無理のないいい姿勢でうまく全身の力を使えるような練習を進めていってください。

それから、歌うようにピアノを弾く、というのはとても難しいことではありますが、その大きな助けになるのは実際にメロディーを声に出して歌ってみることです。どこで息づきが必要か、歌うとメロディーにどんな抑揚がつくのか、いろいろなことがわかります。ピアノで弾くパッセージは指の強さの違いでムラが出やすいので、よく自分の音を聴いてそのコントロールができるようになるといいですね。

また、難しい曲になると、指を動かすだけでも大変なところがたくさんありますが、そのようなところも、細かい音型やフレージングなどを音楽的に解釈していくと、息づかいが理解できて弾きやすくなることがよくあります。楽譜を読み込むことでしっかりと音楽を理解し、より音楽を楽しめるようになると練習はおもしろくなると思います。

最後に、今回の出場者の多くの方が、しっかりと音楽の内容、それが描き出す情景や感情を表現できていることに驚きました。音楽の表現は、音楽だけでなく日々の生活の中で感じる様々な感情や体験や、音楽以外のいろいろな芸術や表現活動に触れることでも大きく成長していきます。やわらかな心でたくさんのものを吸収しながら、ピアノで表現することを楽しんでいきたいですね。

【正源司有加 先生】

この度、第 17 回有明楽器ピアノコンクールにて、審査員を務めさせて頂きました、正源司有加です。
私は幼い頃から高校卒業までの間、有明楽器に通っていました。同じ教室の仲間と共に色々なアンサンブルや作曲に取り組み、頑張っていたことが、印象深い思い出です。
今回皆さんの心の込もった演奏を聴かせて頂き、当時と変わらず、お互いに切磋琢磨し、音楽の勉強に励んでいらっしゃるのだということを実感する、感慨深い 2 日間となりました。

皆さんとても熱心に学んでいらっしゃる印象でしたが、大まかな傾向として、特に小学生以下のお子さんを中心に、メロディーではない伴奏形を受け持つパートの表情を工夫できると、より洗練されるのではと感じられる場面がありました。それによって、メロディーも歌いやすくなると思うので、ぜひ研究されてみて下さい。その他、各演奏について、私が感じたことを講評用紙に記入いたしました。参考になる点がありましたら、幸いです。

最近は習い事の種類も増え、ピアノを習う人も減ってきているようですが、ピアノを習ううちに自然と習得できることが、その先のあらゆる場面で役に立つと私は思っています。日々の時間の使い方や目標日までの計画的な練習の進め方、本番での緊張や集中力のコントロール、レッスンの際の先生とのコミュニケーションなど、沢山のことを学ぶ機会があります。

そして、音楽に触れることで育つ感受性が心の成長にも大きな影響を与えてくれると思います。将来、音楽の道へ進まれることになったとしても、そうでなくても、こうやってピアノと向き合った日々の努力を糧に、羽ばたいて行って下さい。

今回はこの情勢下でしたので、不安や葛藤など様々なお気持ちを抱いてコンクールに臨まれたことと思います。先生方はじめ、無事の開催にご尽力くださった皆様へ心より御礼申し上げます。